

文化財学科 公開講座

武士は質素、庶民には余裕も

4 教員リレー 城下町金沢の暮らし解説

金沢学院大学美術文化学部文化財学科の公開講座は十月九日と二十三日の両日にわたって開かれ、東四柳史明教授、馬場先恵子助教授、見瀬和雄教授、石崎建治助教授が「城下町金沢に生きた人びと」の統一テーマで、リレー形式の講義を行

いました。幕末期の下級武士は借金もあつて比較的質素な生活だったのに対し、町人や僧侶は寺社参りや湯治、料理屋通いなど生活にやや余裕があったことが解説され、全国有数の消費都市だった金沢の姿と人々の暮らしが浮かび上がりました。

午前様で二日酔 勤めを休む町人

幕末期の町人、能登屋甚三郎日記からは、寺社参詣や芝居見物を楽しみ、宴会で騒いだり、湯治に出かけるなど当時の庶民生活の一端が読み取れる。時には夕方仕事が終わってから東山界隈の寺社に参詣し、料理屋で芸者をあけて夜中まで飲んだ拳句に二日酔となり、翌日の勤めを休んだ記述もある。郡部の寺社が金沢へ出張して仏像や宝物をご開帳することも多かった。



幕末期の町人、能登屋甚三郎日記からは、寺社参詣や芝居見物を楽しみ、宴会で騒いだり、湯治に出かけるなど当時の庶民生活の一端が読み取れる。時には夕方仕事が終わってから東山界隈の寺社に参詣し、料理屋で芸者をあけて夜中まで飲んだ拳句に二日酔となり、翌日の勤めを休んだ記述もある。郡部の寺社が金沢へ出張して仏像や宝物をご開帳することも多かった。

城郭と城下一体 防衛型整備進む

馬場先助教授

金沢は平山城郭と町並みが一体化した近世城下町である。道路は見通しや射通しを避けるため屈折や斜交が多い。土地は藩御用地、武家地、町人地、寺社地、火除け地などで構成されていた。武士と町人の人口比率はほぼ同数ながら、侍地は七割、町人地は二割余りだった。町家は表通りに直接面して並び建っていた。



寺院の領収書類 豊かな生活示す

見瀬教授

金沢市白菊町の石坂瑞泉寺には衣食住や趣味、嗜好まで多岐にわたる領収書、納品書、通い帳の類が約千二百点も廃棄されず保存されていた。特に魚、麵類、菓子、酒など野菜以外の食品は多彩である。魚は鰯、鯛、ハチメ、海老、蟹、鰻などの高級魚も目立ち、金沢有数の大坊が高い水準の消費生活を送っていたことを裏付ける史料である。



江戸へ単身赴任 武士は儉約生活

石崎助教授

加賀藩に御算用者として仕えていた猪山直之が遺した詳細な記録からは、猪山家の質素儉約に徹した経済実態を通して藩の逼迫した財政運営もうかがえる。直之の勤務実態では、参勤交代に同行して江戸で単身赴任生活を送った記録も交じる。江戸ではストレスがたまる生活ながら、うさ晴らしは同僚との飲み会程度で物見遊山は見当たらなかった。



デザイン展会場で課外授業

金沢学院短大 カラー・ビジュアルコース

金沢学院短期大学生活文化学科生活デザイン専攻のカラー・ビジュアルコース二年生十七人は十月二十二日、金沢市の石川県地場産業振興センターで開幕した県デザイン展の会場です。同展に出品した各自の作品について山岸政雄教授から批評をもらい、卒業制作に向けた参考にしました。出品作の中では、田中麻依子さんの「今日は何色？」が奨励賞を受賞しました。



山岸教授から1点ずつ批評を受ける学生＝石川県地場産業振興センター

柔道の模範演技を披露、個人指導も

土曜大学第7回
金沢学院大学基礎教育機



構主催の土曜大学第七回講座は十月十六日、本学柔道場で開かれ、幼稚園児から大人まで十六人の参加者が、柔道の礼法、受身、基本技などを学びました。写真。バルセロナ五輪出場の実績がある渡辺涼子助教授と金沢東高校の西村裕樹教授が模範演技を披露し、個人指導に当たりました。次回の土曜大学は十月三十日に行われます。

発行・広報室